

機関番号 : 87123

研究種目 : 基盤 C 一般

研究期間 : H20~H22

課題番号 : 20530858

研究課題名(和文) ストーリーマンガを含む大衆文化作品を素材とする異文化教育教材と教師用リソース開発

研究課題名(英文) Development of teaching materials and teacher's resources for intercultural skills training

研究代表者 因京子 (CHINAMI KYOKO) 研究者番号 : 60217239

研究成果の概要(和文) : 映画を用いる教材と教師用リソース、日本人学生にも用いることのできる観察と分析の技能養成のための教材および教師用リソース、ドラマを用いた教室活動案を作成した。ストーリーマンガに基づく教材と教材開発の方法論の議論を含む大学院生向け集中講義を海外と日本で行い、受講者、外国人を含む教師および教師志望者を対象に、使用可能性についての判断を調査した。開発した教材や教材開発の方法論等についての招待講演を海外において2回、国内で1回行った。

研究成果の概要(英文) : We developed a teaching material based on a film and a teacher's manual for it, teaching materials for enhancing observation and analysis skills of both learners and native speakers of Japanese and a teacher's manual, and teaching plans based on TV dramas. We taught two intensive courses (one overseas, one home) which involved use and discussions on methodology of our teaching materials using visual novels (*sutoorii manga*), and conducted a research on the learners' and teachers' judgments of feasibility of our materials and methodology. We gave three lectures as an invited lecturer about our methodology and materials at three academic conferences (two overseas, one home).

交付決定額

(金額単位 : 円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	1,100,000	330,000	1,430,000
21年度	700,000	210,000	910,000
22年度	900,000	270,000	900,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野 : 社会科学

科研費の分科・細目 : 教育学、教科教育学

キーワード : ストーリーマンガ、異文化理解、発話の解釈、文脈の意味、文体的特徴

1. 研究開始当初の背景

日本語を用いて日本人と共に活動することを希望する外国人が増加し、日本国内でも日常的に日本人と外国人と緊密な交流・接触する機会が増えている中、日常的コミュニケーションの中に含まれる文化的前提についての学習者の理解を促進し、また、母語話者

の意識化を進めるための、具体的な方法論が求められている。しかしながら、外国語教育や異文化理解教育の中で用いることができる教材や教授法の開発は進んでいるとは言えない。

本研究の研究代表者は、外国人の関心を集めており現代日本を反映する作品も多いス

トリーマンガの教育利用を進めてきた。具体的には、異文化理解と自国文化の認識に最も必要な「観察力」と「分析力」を、作品中の発話や行動の解釈を通して養う活動を提供する教材を4シリーズ作成し、併せて、非母語話者教師による使用や海外における使用を可能にする教師用のリソースの開発も進めてきた。研究代表者が用いてきた方法は、語用論の原則の適用範囲や優位性、文化的前提における違いを反映している箇所を含む作品を選定し、その現象についての解釈を求め議論を通して内省を促すというものであるが、この方法は、作品選定や活動案作成に慎重な注意が必要とされるが、幅広い教育環境において利用できる可能性の高いものであることが明らかになり、海外の研究者教育担当者からも大いなる関心を寄せられた。

研究開始当初の課題は、ストーリーマンガ利用をさらに進めると共に、この方法論の他の文化的作品にも応用する可能性を追求し、併せて、教師用のリソースを充実させることであった。

2. 研究の目的

本研究は、国内外の異文化理解教育、外国語教育などの場での活用を前提に、ストーリーマンガ、大衆小説、さらには、テレビドラマ、映画など映像を含む文化的作品などを用いて、日本文化や文化的価値観に基づいた言語行動についての理解、意識化を進める教材と、それらについての教師用リソースを作成し、且つ、作成した教材を、韓国・台湾・中国等で使用するための支援リソースを開発すること、および、それらの使用可能性を検証することである。

3. 研究の方法

①ストーリーマンガについて開発した手法を応用して、テレビドラマ、映画などの映像を含む大衆文化作品を教材化し、併せて教師用リソース開発を含む教授法を開発した。

②使用可能性を検証するために、外国人教師を含む日本語教師の教材評価を調査し、また、開発した教材を使用する授業を展開し、学習者及び外国人教師に対する聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

教材・教授法の開発に関しては、映画を用いる教材(図書⑥)、ドラマを用いた教授法開発(論文⑥)、日本人学生にも用いることのできる観察分析技能養成教材(図書②、③、⑤)、教師用の手引書(図書⑤および⑥)を作成した。

使用可能性の検証に関しては、2008年に台湾南台科技大学において集中コースを行った際の受講者、台湾で開催された学会において講演を行った際に接触した台湾人教師、韓国での学会の際に接触した韓国人教師、国内で日本語教育を学ぶ複数の大学の大学院生等に聞き取り調査を行なって、その多くから大きな関心を寄せられ、高い評価を得た。教材⑥については、試用および調査を2011年に行う予定である。

評価が得られたことの端的な表れは、開発した教材や手法についての講演を行う機会が複数与えられたこと(学会発表①、②、③)、さらに、開発教材の使用と分析を含む集中講義を行う機会が海外(上記、南台科技大学)および国内(秋田国際教養大学)において得られたことである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

①因京子、日本語のポライトネスの表現とその教育法、2008年応用日語国際學術検討會・2008年応用日本語国際シンポジウム會議手冊、査読有、2008、32-42

②因京子、社会文化技能を育てる教材の開発に向けて、台湾日語文學會2008年度日本語文學國際學術検討會會議手冊、査読有、2008、32-39

③因京子、ストーリーマンガを用いた日本語の社会文化技能訓練、日本語研究論文集-日語研究的新視野、査読有、致良出版社、台北、2009、39-68

④松村瑞子、日本語会話におけるポライトネス—中国語・韓国語のポライトネスとの対象研究に向けて、日本語研究論文集-日語研究的新視野、査読有、致良出版社、台北、2009、13-38

⑤松村瑞子、聞き手指向の日本語ポライトネス、東アジア言語文化論究、査読有、第11集、2010、51-65

⑥因京子・力武由美・吉永宗義・石橋通江、低年次学生の基礎科目学習動機の向上を促す看護基礎教育の方法開発—医療現場を描いたドラマを用いて—、Intramural Research Report, 本赤十字九州国際看護大学、査読有、第9号、2010、27-38

[学会発表](計3件)

①因京子、日本語のポライトネスとその教育法、2008年5月17日、2008年応用日語国際學術検討會、招請講演、国立高雄餐旅学院、高雄市、中華民國

②因京子、社会文化技能を育てる教材の開発に

向けて、2008年12月20日、2008年日本語文學国際學術検討會、招待講演、淡江大学淡水校園、台北、中華民國
③因京子、ストーリーマンガで学ぶ日本語の語用論、2009年5月30日、2009年度春学期 AIU日本語教育講演会、国際教養大学、秋田市

〔図書〕(計6件)

- ①因京子、マンガ—ジェンダー表現の多様な意味、ジェンダーで学ぶ言語学、世界思想社、2010、73-88、
②因京子・山路奈保子・松村瑞子・力武由美・入江寛昭、コミュニケーションの基礎—構造と文化の違いを知らう—、日本赤十字九州看護大学、1-80、2010
③因京子・山路奈保子・アブドゥハン恭子・石川朋子、日本語表現道場I、日本赤十字九州看護大学、1-77、2010
④因京子・山路奈保子・アブドゥハン恭子・石川朋子、日本語表現道場 I : 解説と解答例、日本赤十字九州看護大学、1-30、2010
⑤因京子・力武由美・徳永哲・村上淑、国際医療人のコミュニケーション：基礎編、日本赤十字九州看護大学、1-95、2011
⑥徐燕・因京子、日本語・日本文化理解教材：言葉の間を読む：大衆文化作品で学ぶ日本語コミュニケーション、日本赤十字九州看護大学、1-120、2011

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

因京子 (CHINAMI KYOKO)

日本赤十字九州国際看護大学看護学部教授
研究者番号：60217239

(2) 研究分担者

松村瑞子 (MATSUMURA YOSHIKO)

九州大学言語文化研究院教授

研究者番号：80156463

西山猛 (NISHIYAMA TAKESHI)

九州大学言語文化研究院准教授

研究者番号：40237756

チョミギョン (CHO MIGYON)

九州大学言語文化研究院准教授

研究者番号：30351985

(3) 連携研究者 なし